

「あの日」から13年。 9歳の少女が撮ったインドネシア・アチェの今 イザトゥル・アシュラ写真展

2018年 3月6日(火) ~ 3月29日(金)

11:00~21:00

※貸切が入っている場合がございます。ウェブなどあらかじめご確認ください。

長町遊楽庵びすた〜り

〒982-0011 仙台市太白区長町 3-7-1
地下鉄長町駅・JR長町駅より徒歩5分

イザへの13の質問



あなたの名前を教えてください。

私の名前はイザトゥル アシュラです。みんなにはイザと呼ばれています。わたしはお母さんにつけてもらったこの名前を、とてもきれいな名前だと思っています。



あなたの家族について教えてください。一番仲がいいのは誰ですか。

お父さんとお母さん、そして兄弟と暮らしています。わたしは4人兄弟の3番目です。一番仲がいいのはお母さんです。



あなたの友達について教えてください。いつも何をして遊んでいますか。

わたしの友だちはみんなやさしいです。わたしたちはよくなわとびなどをして遊んでいます。



大きくなったらどんなことをしたいですか。

先生になりたいです。がんばって成功し、両親の助けになりたいと思っています。



写真は好きですか。展示されている写真についてどう思いますか。

はい、好きです。わたしの趣味は写真を撮ることです。撮った写真をこんなにきれいにプリントしてくれて、とてもうれしいです。(普段はスマホで写真を撮っているイザが、初めて一眼レフで撮ったのが今回展示した写真である)



これからどんなことをしてみたいですか。

勉強やいろんなことにチャレンジしていきたいです。



日本であなたの写真を見に訪れた人へメッセージをお願いします。

わたしの住むバンダアチェに遊びに来てくれたらとてもうれしいです。



あなたの年齢はいくつですか。生まれたときのことを覚えていますか。

わたしは今9歳です。生まれたときのことは覚えていません。



あなたの住んでいるガンボン(日本で言う地区=町内会のようなもの)について教えてください。あなたの好きな場所はどこですか。

私の住んでいるガンボンは、お互いに助け合っています。わたしは Kapal KPLP (2004年のスマトラ島沖地震で沿岸から流れ着いた2隻の警備艇。現在は震災遺構となっている)のまわりで遊ぶことが好きです。



あなたの学校について教えてください。勉強は何が好きですか。

わたしはブンゲ・ブランチュ第10 イスラム小学校の生徒で、3年生です。勉強は生物学が好きです。



日本についてどう思いますか。

日本は桜の花と雪の美しい国。日本人はやさしいと思います。いつか日本に行ってみたいです。



これからどんな写真を撮りたいですか。

自然や生き物の写真を撮りたいです。



津波についてあなたが知っていること、世界の人に伝えたいことを教えてください。

強い地震が起こると、津波が起こります。(2004年のスマトラ島沖地震では、大きな地震の直後に津波が来るという知識がなく、20万人以上もの人々が亡くなった。その後「TSUNAMI」は各国で津波を表す言葉となり、防災教育が続けられている)



2017年12月、インドネシア・アチェで行われた「アチェ＝ジャパン・コミュニティアート・プロジェクト2017」の報告展を2018年3月、東京と仙台で開催します。

詳細はウェブをご覧ください(左のQRコードまたは下記URLから)
<http://miyato.info>

2004年12月26日、朝8時少し前に起こったスマトラ島沖地震。インド洋一帯に大津波を引き起こし、22万人にものぼる人々が亡くなりました。中でもインドネシアのアチェ州は、最も被害の大きかったエリアとして知られています。

それから13年。同じ震災を経験した地域として、日本とアチェとを結ぶ活動をつづけている団体があります。NPO 法人地球対話ラボは2013年から東北とアチェとをテレビ電話で結んだり、若者やアーティストの相互訪問を行ったりしています。そのプロジェクトのひとつとして2017年12月に始まったのが「アチェ＝ジャパン・コミュニティアート・プロジェクト」です。アチェに点在する博物館や震災遺構など、震災伝承施設やそのコミュニティを会場に、アチェと日本の表現者やボランティア約100名が参加して行われたこのプロジェクトの中で、ひとりの少女に出会いました。彼女の名前はイザ。沿岸から4キロ内陸にある彼女の家の前には、あの目流されて来た2隻の警備艇が今も震災遺構「Kapal KPLP」として保存されています。その前で仙台雑煮を作ってみなで食べたり、お習字を書いたり、凧揚げを

したり、地域の人たち、特に子どもたちというんなことをしました。カメラを向けるとみんなノリノリでポーズをとるような子どもばかりの中、決して写真を撮らせない女の子がいました。それがイザでした。なら、写真を撮るのはどう?と一眼レフを渡し、その日ホテルに帰って何気なくチェックしたその写真に私はとても驚かされました。実は彼女の家の近くにはもっと「有名な」震災遺構があります。5階建のビルほどもある「発電船 PLTD Apung」で、スマトラ島沖地震を伝える象徴のような存在であり、今でも世界中から多くの人々が訪れる国立の博物館施設です。その影に隠れてしまい、イザの家の前の「Kapal KPLP」は、知る人ぞ知るような存在です。しかしそれゆえ貴重な震災遺構として厳重に「保護」されることなく、土地の子どもたちの遊び場としても(お母さんたちの物干し場としても)生き生きと活用されているところがあって、私はそこがとても気に入っています。そしてそこに集うこともたちの今を、イザは私にはできないような方法で切り取り、見せてくれました。それをこの東北の地で共有したいと思います。(現代アーティスト・門脇篤)